

## CISPR シドニー会議 Plenary Assembly (2007.9.21)

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
1 開会			
2 議事次第の承認	CISPR/1145A/DA		
3 前回上海会議 (2004)の議事録の 確認	CISPR/1127/RM	特に問題なし	
4 議事録から派生し た審議事項			
5 CISPR 議長の報告	この3年間に発行されたPublication類の報告など	報告を聞く	
6 CISPR 議長等の選 挙 a) CISPR 議長 b) CISPR 副議長	CISPR/1139/INF: Mr Heirmanが候補 CISPR/1142/INF: Mr. Wrightが候補	現在の議長 Mr. Kerry は任期満了 (6+3年)、副議長 Mr. Despres は退任 (6年)のため、後任者として提案さ れている候補者を支持する	
7 SC 委員長の指名 a) CISPR/A(新任) b) CISPR/B(新任) c) CISPR/D(新任) d) CISPR/F(新任) e) CISPR/H(新任) f) CISPR/I(新任)	CISPR/1143/INF: Mr. Stecherが候補 CISPR/1140/INF: Dr. Sisolefskyが候補 CISPR/1135/INF: Mr. Andersenを再任  CISPR/1138/INF: Mr. Goriniが候補 CISPR/1136/INF: Mr. Wrightを再任	SC 委員長の任期は 6+3 年である が、 Mr. Heirman の後任として、 Mr. Kohling の後任として、  Mr. Després の後任として、  以上の候補が新任または再任候補 として挙がっているため、全員を支持する	
8 「1906 年賞」の受 賞者	過去3年間の受賞者の報告	報告を聞く	
9 Guide 108 等の水平 規格について	AC/30/2006 : IEC規格間の協調に関するGuide 108 の修正に関する報告。EMCに関してはGuide 107に 基づくことをScopeに明記した。	報告を聞く	
10 構成機関の除名	CISPR構成メンバーとなっている国際機関のう ち、最近、活動報告等が無い国際機関を除名する	URSI, Eurelectric, ICAO, UIC and UIE などが除名対象機関である。我 が国としては特に異議なし。	
11 他機関との連携			

## 資料 24-2

<p>a)不活発な連携 b) ECMA</p>	<p>CISPR/S/320/INF Ecma/TC20からCISPRとのliaisonの申込があった。 <a href="http://www.ecma-international.org/memento/TC20.htm">http://www.ecma-international.org/memento/TC20.htm</a> ----- Before 1994 it was known as ECMA - European Computer Manufacturers Association Now, “Ecma International” is an industry association founded in 1961, dedicated to the standardization of information and communication systems.</p>	<p>これまで、CISPR と Ecma は独立に規格を審議していたが、昨今では、独立の作業が困難であるため、Category A liaison の申し入れがあった。これに関する CISPR の対応案は総会で提案されるが、不詳。 <u>我が国としては Ecma を EBU などと同様に構成機関として扱うことに賛成。ただし、CISPR は NC を基本とするため、SC-I に直接参加することに反対する。</u> <b>Category A liaison:</b> IEC Directive 1.17.2.1- 対象機関を通常の NC と同様に扱う。Such organizations are sent copies of all relevant documentation and are invited to meetings. They may nominate experts to participate in a WG/PT</p>	
<p>12 試験方法の多重化</p>	<p>CISPR/1144/INF 産業界はalternative test methodsの導入を望んでいるが、これはISO/IEC Directiveに反しており、reference methodを規定する必要がある。このため、このDirectiveの6.3.5.4項を以下のように修正することを提案する。 If, for any reason, more than one test method is to be standardized, either the referee (often called “reference”) method shall be identified in the document <u>or the intended (equal) validity shall be stated.</u>”</p>	<p>multimedia に関する 2 規格が、identical ではないが同程度の uncertainty になる複数の試験法を導入することを検討している。また、reference method を規定することが困難。このため、Directive の修正を提起したもの。 我が国は以下の理由で提案に反対する： (1) 一般に試験法が複数有る場合、被測定物理量が異なる場合が多い。したがって、比較することは困難。 (2) また、CISPR limit は、放射波(漏えい波)の電界強度を基準にすべきである。したがって、limit に対応する電界強度が同等であり、かつ電界強度の uncertainty が同等であるべ</p>	

## 資料 24-2

		き。	
13 測定の不確かさ	Chair が、許容値適合判断の際に U <sub>CISPR</sub> の導入を推奨する	U <sub>CISPR</sub> の導入は、製品委員会の判断によって決まるものなので、我が国としては静観。	
14 SC-Dの活動報告	最近の活動状況の報告		
15 TC77との共同作業	最近の活動状況の報告		
16 EMC zoneについて	IEC web にある EMC zone の紹介 <a href="http://www.iec.ch/zone/emc/">http://www.iec.ch/zone/emc/</a>		
17 今後の会議 2008 Osaka, Japan 2009 Paris, France 2010 Seattle, USA		2008CISPR を 10/20-10/29 に WTC Osaka で開催することを紹介する。 <u>宣伝パンフレットを用意する。</u>	
18 その他			
19 閉会			